

# 山行報告書



テールリッジから遠望した滝沢上部と2ルンゼ



本谷から見上げた2ルンゼ

- 山城ルート 谷川岳 一の倉沢 2ルンゼ～Bルンゼ
- 山行年月日 平成22年9月18日～20日
- 参加者 風間進・内海正人

- 18日 PM09:00 内海車にて浦和出発、風間宅にて風間ピックアップ。  
PM11:00 センター着 連休にて、センターから先は通行止め。やむを得ず  
ロープウェー駐車場には入るが、待合室には入れず。6F扉前で  
仮眠する。
- 19日 AM05:00 起床。寝坊してしまう。あわてて荷物をたたんで一の倉出会に向  
け約1時間の道のりを歩き出す。  
AM07:00 一の倉沢出会着。3～4パーティーの先客。身支度を整えて出  
AM08:00 ヒョングリの滝上部で懸垂下降順番待ちとなる。  
AM10:00 やっと本谷に降り立ち、2ルンゼを仰ぎ見る。

- AM 11:00 F 1を右から巻く。巻きすぎると中央奥壁に入り込み、にっちもさっちも行かなくなる。ルートファインディングが要求されるところだ。F 1の落とし口に立って、F 2にかかる。滝芯は黒くヌルヌルで登れず、右側壁に取り付く。ここは快適に乗り越す。
- PM 12:00 F 3。ここも落とし口がヌレヌレでしかも垂直。巻ルートを探すがない。やむを得ず突っ込み、何でもありの悪戦苦闘。
- PM 02:00 やっと石門。この間、錆びたハーケンがところどころあるだけで、持参のハーケンを打ち足しまくる。5枚しかないので、その都度セカンドが抜くという作業が加わり、思いのほか時間を食う。
- PM 03:00 やっとザッテルにたどり着く。悪いフリーのクライムダウンで広河原に到着。



ザッテルに到着した内海君



2ルンゼから望む烏帽子奥壁下部

- PM 04:00 ドーム壁とマッターホルン状岩壁の間をめがけて傾斜の落ちたルンゼに行く。マッターホルン状岩壁の基部右側のBルンゼを目指すが、次第に本流は日陰のヌルヌルの細い流れとなり、こ

こも右の急な岩稜帯に逃げる。ここでもハーケンで支点を取り、セカンドが抜きながら行くの時間を食う。

PM06:00 マッターホルン状岩壁の基部を回ったところで、ついに日が暮れ、これ以上の行動は危険と判断。ビバークを決める。携帯は圏外、しかたがない。外傾したテラスの壁側にハーケンを打ち、それにツェルトの中を通したロープをカラビナで固定、それにスリングで自己ビレイをとる。

PM07:00 ツェルトに潜り込み中で傘を差し、ビバーク体制完了。座ったままだが、何とか雨風と寒さは凌げる。夜半から雨。着込んだうえに雨具を着る。それでもじっとしているので寒い。朝が待ち遠しい。

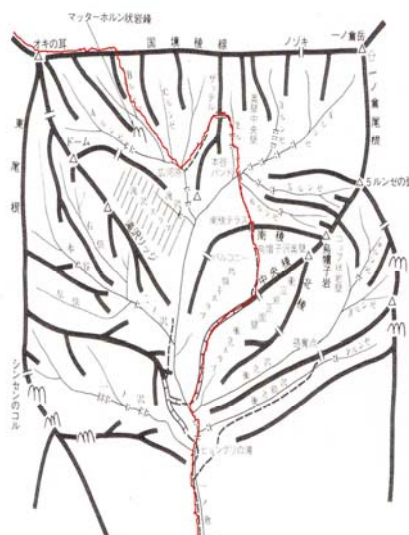
20日 AM05:00 起床。手早くツェルトをたたみ、稜線を目指す。昨夜からの雨は止んだが、ルンゼ内の状態はさらに滑りやすく最悪。ここも草付まじりの岩稜帯にルートを取る。支点はまったくなし。昨日同様自分たちでリスを探し、ハーケンを打ち支点を取り、それを回収するというきの遠くなる作業を繰り返す。遅滞として進まない。

AM09:00 やっと稜線に飛び出し、緊急連絡先の掛川さんと計画書提出先の牧野さんに電話を入れ、無事を知らせる。

AM12:00 疲労が激しいので、天神尾根・ロープウェー経由で下山、駐車ば場到着。



広河原から見た烏帽子奥壁上部



ルート図